

2 班 テーマ 2 B 案

・市場取引における取引公平性

政府が特定の M&A を支援したり、介入したりすることで、市場の競争メカニズムが歪められ、公正な競争が阻害される。これにより市場の効率性の低下や企業成長の阻害、民間企業の投資意欲の減退などにつながる。

・自国産業の保護、技術流出の懸念

M&A は企業が成長し価値を生み出す上で重要な手段である。自国産業の保護や技術流出の懸念はあるものの、資本やノウハウ、技術、知恵が入ってくことで経済が活性化するという側面もある。自国産業や技術の保護のために規制を行うと経済の活性化を妨げてしまうおそれがある。企業は他国との技術の共有や協力の機会を得てより良い製品やサービスを提供することができる。

・グローバルな競争の強化

グローバルな競争力を強化するためには、企業の統合や提携が必要である。国際的な M&A は、企業が新しい市場にアクセスし、規模の経済を享受する手段となる。政府の介入がこれを妨げることで、企業の競争力が低下し、国全体の経済成長に悪影響を及ぼす可能性がある。国内企業は国際的な競争力を失い、他国の企業に対して不利な立場に置かれることになる。また政府の介入により外国企業が投資をためらう可能性もある。これにより、国内市場への外国投資が減少し、経済成長の機会を逃すことになる。

・従業員及び関連するステークホルダー

政府の介入が企業の経営判断を複雑にし、迅速な意思決定やステークホルダーによる企業経営を妨げる恐れがある。企業がビジネスチャンスや成長の機会を失い、従業員やステークホルダーに対して悪影響を及ぼしてしまう。企業がこれら機会を失うと、最終的には従業員の解雇や株価の低下といった悪影響を及ぼす可能性がある。企業が競争力を維持できなければ、企業経営そのものが脅かされることになる。